

(様式第1号)

## 自己評価及び外部評価結果票

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171700133		
法人名	特定非営利活動法人 太良の里		
事業所名	特定非営利活動法人 グループホーム 太良の里		
所在地	佐賀県藤津郡太良町大字糸岐2491番地1		
自己評価作成日	令和3年3月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp">www.kaigokensaku.mhlw.go.jp</a>
-------------	------------------------------------------------------------------------------

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	令和3年4月30日	外部評価確定日	令和3年5月27日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>ゆったりとした施設内配置、広い敷地、そして専用の花壇、野菜畑、果樹園があり自然豊かで理想的環境条件が整っている。又、日々の生活が家族的雰囲気がある。私自身がこの先施設介護を必要とする場合に入居したくなるような施設環境、上質な介護のある施設運営を目指しております。施設と共に育ってきたどんぐりの木々が約10mに成長し、沢山の実がつけ出しました。立派な林に育ってきました。</p> <p>入居者作品</p> <p>山あいの しずかな空気につつまれて とげなし介護に心やすまる。 温かき介護 心いやされ 永遠に 絆深めん 太良の里にて。</p>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>自己評価では、入居したくなる環境と上質な介護のある運営を目指していると記している。自家菜園から採れる食材は、美味しい食事となって喜ばれ、また、他事業所では対応できなかった利用者を受け入れ、共に暮らしていることへの称賛も聞かれる。それは、いずれ自分が当事者になった時、どう介護してほしいかと日頃から職員に問いかけ、きちんと理解され根付いていることの証でもある。職員にとってチームとして互いに補い合うことは当然であり、今年度から看護師資格を持つ職員が常駐することで、更に頼もしくなっている。近隣市町の12グループホーム交流会では、取り上げるテーマによって日頃の疑問や悩み解消に繋がることもあり、同業者ならではの意見が聞ける貴重な機会を大切にしている。また、毎月、太良図書館が入れ替えをしてくれる15～20冊の本は利用者にも好評で、世界が垣間見えたり、俳句を詠むきっかけにもなり刺激を与えている。</p>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・太良の里の理念“ゆっくりと自分らしくそして共に生きる”に基づき、地域住民の皆様とも共に楽しく、そして穏やかに生活できる場になっている。 ・毎日の引継ぎミーティング及び月例ミーティング時を活用し、全職員の共有に向け、話し合っている。	理念とそれを具体的に表した心構えを掲げている。目に付く場所への掲示や、職員ミーティング時の唱和、更にそれらは名刺の裏にも印刷され意識付けを図っている。日々の関わりの中で、目線を合わせながら声を掛け、会話をし、リラックスできるひとときを丁寧に支援している様子には、常に立ち戻る原点として浸透しているのが窺える。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	これまで地域の浮立や奉仕作業などに積極的に参加し、毎年ホームコンサートなども行ってきたが、世界規模の新型コロナウイルス感染症により、施設でも面会を全面的に禁止し、面会や交流は途切れている。新型コロナが収束する時期を見計らい、これまで交流ができなかった分、積極的に地域との関わりを密にしていきたい。	隣接する理事長宅や近くに住む職員もいて地域の情報は必ず届いている。通常であれば近隣住民との交流には様々な機会があった。みなさんを事業所に招いてのホームコンサートや高校ボランティア部の訪問、出入り自由な敷地にはどんぐり林や花壇もあり憩いの場になっていた。コロナ禍では全てを自粛し、家族の面会も庭先とテラスという距離を保ちながら僅か数分としている。現在は控えることばかりだが、地域にとっても事業所は拠り所であり、コロナ収束を待ち望んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	太良の里敷地内及び隣接地には専用の広い花だん果樹園野菜畑があり、入居者の他に地域の方々にも開放し、憩いの場として利用して頂いている。また職員は認知症サポーター研修に積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度は6回開催した。コロナでコンサートなどはできなかったが、避難訓練の実施などと合わせて入居者の健康状態の報告や普段の生活の様子を伝えている。	昨年度の運営推進会議は、コロナ禍のため集合による会議が出来なかった。事業所から報告予定であった利用者状況や行事等の資料は各メンバーに郵送されている。この会議に於ける事業所の長は、講話や避難訓練等が同日開催されることだが、昨年度は全て職員と利用者のみで行っている。心肺蘇生法が予定されていた回では、消防署員が訪れ、人形を使った講習を行っている。通常であれば参加メンバーにも知識として還元されていた。元々、行政側は代理でも出席者を出し、メンバー同士が顔見知りとなって相談し合う場面も見られていた会議である。自己評価では、地域との繋がりが深まり、理解者なども少しずつ増えていると答えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営者、管理者はホーム開設当初から行政当局と頻りに顔を合わせ、情報交換を行っている、町を通じて森林組合からもらった自然木を利用して作ったテーブルやベンチは入居者に憩いの場所になっている。	運営推進会議以外でも地域の他職種ネットワーク会議等で接点がある。相談事は言い易く、電話や直接出向いたり、内容によっては担当者が事業所を訪れることもある。日頃から意思疎通は出来ており、協働関係も築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営者及び職員は身体拘束の弊害を認識し、どんな事があっても拘束は行わないという姿勢で介護を実践しております。但し本人又は他入居者などの生命又は身体を保護するため、緊急上やむを得ない場合はこの限りではない。	入居契約時に指針の説明を行っている。事業所では3か月毎に身体拘束検討委員会を開き、基準としている4項目に照らし合わせると共に、自分だったらどう感じるかという感覚も大切にしている。近隣市町の12グループホームの交流会ではテーマとして取り上げており、交替で参加する職員は戻ってから周知・勉強会の役割も担っている。自己評価に「緊急上、やむを得ない場合は」と記しているが、その際も身体拘束を止めるための工夫や方法を同時に話し合う事としており、その行為を肯定するものではない。玄関に施錠はなく、職員の見守りによって安全な暮らしが支援されている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・高齢者虐待防止関連法について学習し理解している。 ・利用者と家族間及び事業所内で虐待が見過ごされてないように注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	県及び太良町が発行している地域福祉権利擁護事業、成年後見制度について学習し、理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居/退居の際、利用者家族に対して不安、疑問点が生じないように十分な説明を行い理解/納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族がサービスに関する意見、要望を職員に伝えることができるよう、「みなさまの声」の用紙を設置している。また家族が運営会議メンバーやその他の人に伝えることが出来るよう入居契約時に説明してる。	コロナ禍前は、家族の来所は多かった。現在、面会を規制していることもあり、直接会話が出来る機会は減っているものの、何でも気軽に話してもらえるよう努める姿勢に変わりはない。毎月の利用料明細書にはホーム便りや、各々の近況を知らせるメッセージも添えている。日々を写した個別写真同封も検討中である。なかなか来られない家族や遠方に住む家族へは定期的な電話連絡をし、その後に利用者と替わり話してもらうこともある。最近の家族の声では、本来、町外での受診は家族対応となっているが、コロナ禍の状況に配慮し職員が付き添っていることへの感謝が伝えられている。意見等が寄せられれば前向きに活かす体制もある。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> <li>意見不満苦情の集約 玄関受付に「みなさまの声」用紙を設置し、無記名で自由に記入出来るようにしている。</li> <li>月例職員ミーティング及び日毎の朝礼ミーティング時に運営に関する意見、要望、提案につき聴取し、運営に活かしている。</li> </ul>	<p>毎月の職員ミーティングには休みの職員も参加し、19時から一時間余りを要している。利用者毎のカンファレンスや研修報告を兼ねた勉強会、周知事項などが主な内容である。また、毎月、職員自らが掲げた個人目標に対し自己評価を行っていることが発言のきっかけにもなっている。管理者としては働きやすい職場であるよう配慮も必要で、定時での帰宅を促し、休暇取得にも出来るだけ応えている。職員の表情に心配事などを読み取った時にはそれとなく声を掛け和らげるよう努めている。現場の声には耳を傾けており、意見は上席にも届けられている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>運営者や管理者が運営や管理について職員の声に耳を傾け、より良い運営に反映させている。</li> <li>職員の勤務体制や臨機応変な対応につき管理者と職員間の話し合いの納得の上で調整している。</li> </ul>		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>管理者職員の能力、特性、経験、年齢に応じ各種研修に参加させて、介護力アップにつなげている。 (目標:3回/年/人)</p>		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<p>太良町内は下記の福祉施設があり運営者職員はそれぞれ連帯を取り交流している。・太良町福祉協議会・太良町包括支援センター・高齢福祉施設・光風荘・太良病院居宅介護支援センター・高齢者保健施設・ふるさとの森・太良町社協・宅老所おおうら鹿島太良塩田グループホーム交流会。平成21年6月より合計12事業所による交流会を発足させ下記内容につき月1回開催している。・運営部会・管理者部会・介護者部会・ケアマネージャー部会</p>		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人家族と面談し話を良く聴くことを大切にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人と家族との思いの違いを聴取し、本人がベストの入居生活ができるよう配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時本人/家族の実情の要望を元にして可能な限り対応している。また事業所として対応不可のサービスについては他福祉施設と連携を取り対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「介護する一される」一方的な縦の関係の見直し「一緒に過ごし、学び、支えあう」関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員と家族が「介護する一される」一方的な関係でなく、家族が職員に介護をゆだねきりになる事なく、職員と一緒に、支援していく事が大切であると認識している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	大切な人との音信が絶えないよう、状況に応じ、電話、ハガキ、手紙、を書く事など進めるなど、これ迄の関係が保たれるよう、支援している。	入居までの人間関係の把握には本人や家族、担当のケアマネージャーに話を聞き、場合によっては利用していたサービス事業所や病院関係者からも情報を集めている。それらを基に、通常であれば盆正月の帰宅(宿泊もあり)や墓参り、法事への出席、また、家族との買物や外食などの支援が組まれていた。コロナ禍の現在、規制される事も多いが、電話の取り次ぎやハガキ、手紙を書く手伝いは希望があればいつでも応えている。また、どのような場合であっても、事業所には利用者と家族を結ぶ役割があると考え、家族関係が難しいケースでは、日頃の様子や利用者が口にした事を伝えながら関係回復を働きかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の個々人の経歴、趣味、性質等を把握し食堂での席次、風呂の順番などにつき配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居の場合には、転居先(自宅家族病院)へ訪問しその後の生活状況をフォローしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員全員が入居者一人ひとりの思いや意向につき関心をもち、また入居者が話しやすい会話内容/目線、姿勢で利用者様本人の対応をすべく心掛けている。	職員は、利用者に関心を持って接することが変化や想いに気付くことに繋がると考え実践している。亡き夫の写真を常に身に付けておきたいと願った方に、縮小コピーした写真をラミネート後、ペンダントにして渡した例もある。入浴中の寛いだひとときや、一対一で話し相手をしている時、また、スキンシップも交えながら笑顔で声を掛ける時には想いを話してくれることも多い。発語の少ない利用者とは仕草にも注意を払い、居室を訪ねたり、若い頃の仕事の話を聞いたり、常に傍らにすることを実感してもらえるよう努めている。聞き取った事は口頭や日誌の特記事項欄に記し共有を図っている。そこからケアプランに反映させた例もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	相談受付時及び入居時に入居希望者(事前入居時)調査表に基づき、生活歴、生活環境、これまでの経過などを把握し、以降の生活につなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者ひとり一人の健康、精神そして生活状態を観察し記録し、申し送り事項と共に後任者に引き継ぐなど総合的にチームとして把握している。		



自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画書作成の基本方針として「入居希望者調査表」情報をもとに本人、家族、担当ケアマネージャーと協議の上作成し、入居後は本人の意向を折込み見直し(3ヶ月毎)行い家族の同意捺印を頂いている。</p>	<p>ケアプランの設定期間は、入居して間もない頃は毎月見直し、その後、3か月毎へと移っていく。その間に変化があれば臨機応変な対応もある。本人の希望は日頃のケアの中で把握し、家族の要望等は来所時や電話での会話から汲み取っている。認知症の進行が危惧される中、家族の写真等で記憶の呼び起こしを図ることもある。今回の外部評価アンケートでは、大半の家族が「分かりやすく説明を受け、一緒に話し合っている」と答えている。また、事業所では本年度から看護師資格を持つケアマネージャーが常駐していることも心強い。ケアプランの実施状況は介護・看護の記録簿等で確認され、それらを基に毎月、ケアマネージャーによるモニタリングも行われている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>入居者個々人の生活上の記録は「生活/身体状況調査表」に記入し、職員そして計画作成担当者が共有し、協議の上、介護計画書に適宜折込み更改している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>単に介護計画書に記載された介護支援にとどまらずグループホームの特性を生かした小回りのきく精神的にも心うきうきする変化のある共同生活を心掛けている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域の皆様に協力して頂いている。 ・民生委員・ボランティア活動・教育機関・警察 ・消防署・自治会(老人会)・町役場など</p>		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	基本方針は下記の通り ・主治医 入居までのかかりつけ医とする。 ・上項なき場合、施設の協力医が主治医 ・専門医が必要な場合、主治医の判断で専門 医を紹介してもらっている。	かかりつけ医として昔からの馴染みの医師の元 へ通う方もあれば、入居後に説明を受け、納得し て協力医へ変更を希望した方もある。町外への受 診は家族の対応を求めていたが、コロナ禍では 全て職員が対応しており、家族からは感謝の声が 聞かれる。往診や訪問眼科も依頼しながら適切な 医療が支援されている。今年度から職員として常 駐する看護師は、これまで利用していた訪問看護 ステーションに在籍していたため、利用者の健康 面や医療面にも詳しく、スムーズな受け入れが 出ている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪 問看護師等に伝えて相談し、個々の利用 者が適切な受診や看護を受けられるよう に支援している	介護職員は入居者それぞれの健康状態をは じめ、生活状況を詳細に把握し、主治医に伝え、 適切な受診につなげている。また週に一度、訪 問看護による医療連携体制が整っており、安心し た運営が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。又は、そうした場合に備え て病院関係者との関係づくりを行っている。	・施設の各職員は協力医と常時情報交換し、入 居者の健康管理や医療活用の支援を得てい る。入居者が入院した場合、より短期間に医療 が終了し、退院となるよう病院関係者、本人御 家族と話し合いを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援            重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>・訪問看護による医療連携が整っており、重度化傾向に向かう入居者を含め全入居者の健康状態を把握し、ご本人、ご家族、訪看、施設間において情報を密にし、連携を図っている。また、入居時に重度化した場合や終末期の在り方について話し合う機会を設けている。</p>	<p>入居契約時に指針の説明を行い、当初の希望として確認も行っている。その後、容態の変化に伴い、家族の気持ちは揺れ動くことを踏まえ、話し合いは何度でも重ねる事としている。説明の場に医師の同席も検討中である。高齢者が暮らす場所であり、職員には毎日が看取り、いつ急変があっても対応するという心構えがある。これまでに殆どの職員が看取り(エンゼルケアまで)を経験しており、今後も希望があれば応えていく用意もある。本人や家族が安心して納得した最期を迎えられるよう支援している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え            利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急事態発生時には下記マニュアルを作成し、全ての職員が応急手当や初期対応が冷静に実施出来るよう定期的に訓練を行っている。            緊急事態発生時の処理/対応・火災発生時の処理要領・火災時避難訓練。また現在、太良の里の避難所を建築中であるが、コロナ感染者が出た場合の避難所としても活用する。</p>	/	
35	(13)	<p>○災害対策            火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>現在、太良の里避難所を建築中であるが、基礎を1m以上高くして川の氾濫、高潮、津波対応できる。職員の多数が2～10分の間に自宅より緊急出動出来る体制をとっている。平成22年4月にスプリンクラー設置装備・火災時には、消防署及び職員宅に即自動通報するよう体制を整えている。</p>	<p>年2回の避難訓練の他、定期的にマニュアルからの手順確認も行っている。火災作動すると自動的に119番通報する自動火災報知設備があり、訓練では模擬作動させている。時間帯は昼間に行うが、夜間想定では夜勤者ひとりのつもりで臨んでいる。利用者も一緒に避難を体験し、職員は消火器等の使い方も承知している。非常食等の備蓄もある。訓練で気付く課題や反省点は速やかに改善され全員に周知している。昨年は大型台風の襲来で、全員が隣接する理事長宅へ避難した。現在、自然災害にも対策が練られた避難所が建設中である。</p>	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>職員採用時に誓約書を書かせ、また日常勤務時にも教育をして厳守させている。業務上知れた利用者家族等及びその他の情報は在職中、退職後においても何人に対しても漏らしてはならない。</p>	<p>トイレや入浴の介助では羞恥心などへの配慮が最も求められる。ドアは閉める事、周囲に見え難い立ち位置での介助等々、基本的な事だがおざなりにもなりがちな事をきちんと行っている。入居して間もない頃の同性によるケアも同様である。また、個人情報の取り扱いに対する職員の意識は高く、ホーム便り等への名前や写真掲載には事前に承諾をもらっている。更に、業務上のやり取りであっても職員同士の声の大きさにも注意を払っている。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>入居者9人は全員それぞれ異なった生活力を有しており、認知症の進行した方は判断力、自己表現力は低下しても適切な対応により発言、意志表示は可能であり表情もやわらぐ。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>今日一日どう過ごしたいのか、普段の観察を通じ本人の意向をふまえて把握し、食事、入浴以外は本人のペース/意向に沿ったものとしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ひとり一人の個性、希望、生活に応じて髪型や、服装等の身だしなみやおしゃれを個別に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の前準備、調理配膳など個々人の能力に応じ職員と一緒にやっている。また専用の野菜畑、果樹園で収穫されたもの、旬の食材をいただいている。	献立は、冷蔵庫の中身や利用者に食べたいものを尋ねながら、当番の職員が考えている。野菜類の殆どは畑で採れ、近くには漁港もあって新鮮な魚類も手に入りやすい。好き嫌いやアレルギー有無の把握もしている。職員は、自分で口から食べることの大切さを理解しており、一緒に同じものを食べながら介助は最小限に止めている。形状を変えたり、軽い食器や、スプーンを使った食べやすい工夫もしている。箸を伸ばす先に器を置いて、何でも食べてもらえるよう促すこともある。誕生日は当日、または同月をまとめて祝い、希望する献立と手作りのケーキやデザートも用意される。健康管理の体重測定等で摂取量の確認としている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者本人の好みや苦手なものの把握、喫食量、飲水量及び喫食状況については「身体介護記録」にてフォローしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を理解し、食後のうがい又は歯みがきを実施している。歯みがきの習慣が無かった方も歯みがきが定着化しました。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレでの排泄:歩行が少々困難であっても職員の時間をかけての見守りでトイレでの排泄を心かけている。歩行の困難な場合には自室にポータブルトイレを設置している。オムツの使用は極力排除した介護を実施している。	ADL(日常生活動作)の低下は否めないところだが、現状の維持が出来るよう支援している。特に、排泄に関しては失敗してもすぐにパット類を使用するのではなく、まず声掛けや誘導、見守りで様子を見ながら対応するのが事業所の方針である。昼間は全員がトイレでの排泄であり、そのチェック表からの効果で入居後に使用枚数が改善した例もある。これは費用負担の軽減にも繋がっている。トイレ内は、車椅子や職員が介助に入っても十分な広さである。便座の両脇にある手摺りは座位の安定を保ち、立ち座りも助けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘を改善するため、食生活を工夫、適度な運動及び歩行など自然排便を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	・入居者ひとり一人の意向を第一にくつろいだ気分で時間を気にせず入浴出来るように心掛けている。 ・又羞恥心及び恐怖心に対する個々人の状況に応じて十分配慮している。	入浴は2日置きの午前中としているが、風呂の準備は毎日できているため、希望があればこの限りではない。拒む人はなく、一人ずつ、ゆっくりと入ってもらっている。入浴しない日でも下着肌着の交換は毎日行い清潔保持に努めている。浴室は広く、冬場のヒートショック対策には脱衣場から暖気を送ることで対応している。また、手摺りが多いことは安全への配慮が窺える。衣服の脱ぎ着は出来るだけ本人に任せ、手伝いは最小限で見守っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・一日一日の生活が本人にとって自然のリズムで楽しく過せるよう配慮している。 ・不眠を訴える場合には健康状態を考慮して花だん果樹園、野菜園など散策することも効果的。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	介護主任を中心に薬の目的、副作用、用法、用量については共有、理解している。心身上の変化や異状があった場合医師、家族に連絡。以上の記録は「身体介護記録表」に詳細に記入し、フォローしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いのある生活気晴らしの支援として下記を実施。 ・洗濯物のたたみ仕分け配布・施設内の畑でとれた花、野菜、果物の仕分け・料理・花だん、畑、果樹園の手入れ・手芸など		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者個々人、その日の希望に応じ敷地内花だん隣接地の果樹園、野菜畑散策を実施している。又どんぐり林の下での昼食会、お茶会など施設外で気分転換をはかっている。	利用者から外出の希望があったり、季節の花が見頃だったりすると、天候や体調をみながらみんなで出掛けるという日常があった。コロナ禍ではドライブに出掛けても人出が多ければ降車せず、見頃の花も車窓から眺めている。また、受診の帰り道など気分転換になればと馴染みの場所に立ち寄ることもある。敷地内や周辺への散歩も生活の一部として日常的に支援されている。職員の経験とテクニックは外出を拒む利用者にも活かされ、懐かしい景色に触れ、気持ちの安定に繋がった例もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者個々人の希望、能力に応じ、お金を所持したり使用出来るように支援している。・十分に金銭管理が出来ない方にも“はい、食事代です。電話代です等々”疑似の金銭授受を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・手紙のやり取りが無理な方には大きな紙に自由に大きくかいて頂き、家族知人が来訪する時お見せする。 ・電話でのやり取りが無理な方には子電話にてダイヤルした状態で家族/知人と会話して頂くよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは完全なバリアフリーですべり止め、手摺りが設置され安全な生活空間の確保、又採光、通風についても空調機、換気扇の設置の他自然採光、通風にも配慮し居心地よく過ごしていただいている。	事業所内は全てバリアフリーの設計である。明るく広いリビングのサッシ戸を開けると、全員がゆったりと食事出来るテラスがある。利用者にとっては食欲も増す空間である。周囲の景色を眺めたり、風を感じたり、現在は家族との面会場所でもある。ソファや畳を設えた部分では思い思いに寛ぐことができる。利用者の動線上に行動を妨げる物もない。職員が掃除をしていると、出来る事を手伝う利用者もある。車等の騒音もなく、夏場の強い日差しにはヨシズで対応している。空調機以外でも窓やサッシ戸を開ける換気を心掛け、手を触れる箇所の消毒もこまめに行っている。浴室やトイレはきれいに掃除されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で過ごす居室の他、談笑するリビング、和室そしてベランダ、又敷地内には花だん雑木林があり、2~3人で談笑できる場所がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や生活用品、装飾品等自由に持ち込み出来、安心して過ごせる場所として利用してもらっている。	居室に持ち込む品物は、火気等の危険物以外に制限はない。居心地良く過ごしてもらえるよう配慮し、仏壇や位牌を持つ方には水や花、毎朝の仏飯供えも支援している。家族の写真等は本人と相談しながら飾り、天気の良い日には布団を干す手間も惜しまない。シーツ等のリネンは週一回の交換で業者に手配されている。	



自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>施設内は完全なバリアフリーと共に全場所にすべり止め及び手摺りを設置している他、個々人の状況に応じ、例えば杖に鈴をつける、歩行器“アルコー”の設置、ベットに手摺の取付など安心して自分から動き出す工夫をしている。</p>		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)  
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。  (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。  (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。  (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。  (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。  (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。  (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	コロナ対策	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない